

令和3年度久保田町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、佐賀平野の中心部に位置し、温暖な気候、粘土分に富んだ肥沃な土地で、地域の全てが平坦地である。

当該地域の基幹産業である農業の振興については、整備された圃場のもと、米・麦・大豆を中心として、大型機械・共同乾燥調製施設等を活かした効率的な土地利用型農業を展開し、また、高付加価値型農業として施設園芸等の振興を図ってきたところである。

しかしながら、米価等が低迷し経営内容が悪化する中、農業者の高齢化の進行や後継者不足などによる担い手の減少が深刻であり、地域農業をどうやって維持していくかが課題となっている。

そういった中で、今後も引き続き、消費者ニーズに即した「安全で安心な良質の農産物」を基本としながら、経営規模の拡大や農地の集積等による生産コストの低減や、稲わら・麦わらのすき込み等による土づくりを積極的に推進していく。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当該地域は、平坦で整備された圃場を活かし、土地利用型農業である米・麦・大豆の作付けを中心に作付けを推進する。また、土地利用型農業に取り組む農業者の所得向上のため、野菜等の収益性の高い作物の作付けを推進する。

大豆の佐賀県産フクユタカは、実需者から引き合いが強く高値で取引されていることから、豪雨に対する排水対策などの技術や担い手による栽培、集落営農法人による団地化を推進し、作付面積や収量、品質を維持しながら生産コストを低減し所得確保できるよう推進していく。

WCS用稲・飼料作物も、主食用米に代わる転作作物として水田活用交付金及び産地交付金を活用し、農業者の収入を確保していく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

当該地域は、平坦な圃場を活用した米、大豆、麦や野菜を中心とした作物が行われ、高い水田利用率が維持されている。今後も、二毛作とブロックローテーション等を活用した水田における土地利用型農業を推進していく。

また、転作状況を営農計画書、共済データ及び現地確認等により水田利用状況を随時確認し、仮に、高収益性の高い作物を作付けする等、畑地化に該当する圃場があれば推進する。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

当地域においては、「生産のめやす」に即した作付けの推進を図っていく。令和2年産の作付実績については、うるち米は「さがびより」が113ha、「夢しずく」が92ha、「その他（ヒル加、天使の詩等）」が3ha、もち米は「ヒヨクモチ」が173haとなっている。

今後は、米の需給と価格の安定を図るため、需要に応じた生産の着実な実施による計画的な生産と、「おいしくて、安全な米」の生産を基本とし、消費者に魅力のある“売れる米づくり”として、佐賀県のブランド米である「さがびより」や「夢しずく」を中心に推進していく。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

近隣圃場へ影響が出ないよう肥培管理及び防除等の栽培管理の徹底、並びに大豆のブロックローテーションを妨げないような取組を基本として、実需者ニーズに応じた生産を進める。また、多収品種の導入による安定多収を推進する。

イ WCS用稲

近隣圃場へ影響が出ないよう肥培管理及び防除等の栽培管理の徹底、並びに大豆のブロックローテーションを妨げないような取組を基本として、畜産農家等の需要に応じた生産を進める。また、産地交付金を活用し、生産水田へ堆肥散布を行う資源循環の取組に対し耕畜連携助成により支援する。

(3) 麦、大豆、飼料作物

米とともに、本町水田農業の基幹作物である麦、大豆については、全国有数の産地を形成しており、今後ともその生産振興に努める。また、一層の品質向上や安定取引等に向けた取組により実需者から信頼される産地として、需要の拡大を図る。

麦については、産地交付金を活用して、収穫後の麦わらをすき込む等有効活用の取組を支援し、環境への負荷を低減した農業の実践拡大を図るとともに、水田フル活用の推進のため二毛作助成を行う。

大豆については、今後とも主食用米に代わる地域の重要な戦略作物として、引き続きブロックローテーションによる連作障害の解消や病害虫の適期防除の徹底を図り、共同乾燥調整施設等の処理能力まで作付面積の拡大を図るとともに、産地交付金を活用して、作付けの団地化による生産量の高位安定化と作業の効率化を進め、団地化の面積を令和3年度の280haから目標年の令和5年には300haへ拡大を図る。あわせて、産地交付金を活用して額縁明渠技術への支援を行い、ゲリラ豪雨による湛水を避けるために地表からの排水の効率化を実現するとともに作付面積の増加と単収の高位安定化を図る。

飼料作物については、畜産農家との連携により、冬季の作付を推進し、畜産農家の飼料コスト低減、耕種農家の所得向上を図る。

(4) 高収益作物（園芸作物等）

高収益品目として、今後も作付け・生産振興に努める。また、一層の品質向上を図り、消費者ニーズにあった産地を形成するとともに、主食用米の需要に応じた生産に寄与することから、産地交付金を活用して作付支援を行う。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	令和5年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	381.1	375.8	375.8
WCS用稲	51.5	55.1	55.5
麦	666.1	667.0	669.0
大豆	304.4	305.0	310
飼料作物	0.1	0.1	0.1
・イタリアン	0.1	0.1	0.1
高収益作物	20.1	23.3	23.5
・野菜	20.0	23.2	23.4
・花き・花木	0.1	0.1	0.1
畑地化	0.0	0.1	0.1

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
1～2	麦	麦二毛作助成（残額 払い・一括払い）	麦（二毛作）面積	（R2年度）666.2ha	（R5年度）669.0ha
			水田利用率	（R2年度）181.0%	（R5年度）188.8%
3	飼料作物	飼料作物二毛作助成 （二毛作）	飼料作物面積	（R2年度）0.1ha	（R5年度）0.1ha
4	WCS用稲	資源循環（耕畜連携）	資源循環取組面積	（R2年度）6.6ha	（R5年度）8.0ha
5	大豆	大豆団地化助成 （基幹）	大豆団地化面積	（R2年度）277.8ha	（R5年度）300.0ha
6	野菜、（種苗を含 む）、花き	園芸作物助成（基 幹）	園芸作物作付面積	（R2年度）20.1ha	（R5年度）23.5ha
7～8	麦	麦わら有効活用助成 （基幹・二毛作）	麦わら有効活用面積 （基幹）	（R2年度）4.0ha	（R5年度）4.5ha
			麦わら有効活用面積 （二毛作）	（R2年度）387.3ha	（R5年度）448.5ha
9	大豆	大豆額縁明渠助成 （基幹）	額縁明渠面積	（R5年度）61.6ha	（R5年度）63.0ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。